

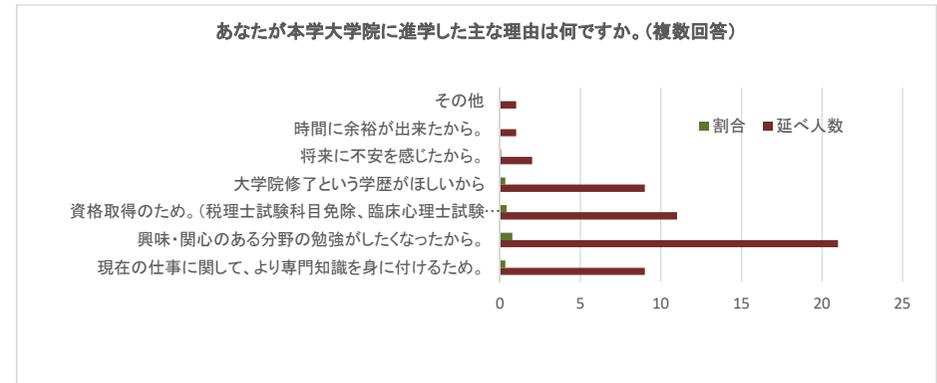
「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 1/9)

2. あなたが本学大学院に進学した主な理由は何ですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため。	9	33%
B	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから。	21	78%
C	資格取得のため。(税理士試験科目免除、臨床心理士試験受験資格、教員専修免許等)	11	41%
D	大学院修了という学歴がほしいから	9	33%
E	将来に不安を感じたから。	2	7%
F	時間に余裕が出来たから。	1	4%
G	その他	1	4%

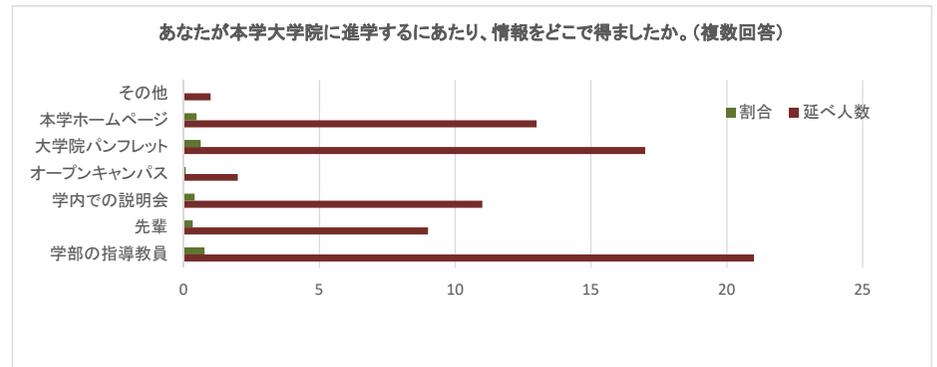
G:理由

-	実力をつけるため
---	----------



3. あなたが本学大学院に進学するにあたり、情報をどこで得ましたか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	学部の指導教員	21	78%
B	先輩	9	33%
C	学内での説明会	11	41%
D	オープンキャンパス	2	7%
E	大学院パンフレット	17	63%
F	本学ホームページ	13	48%
G	その他	1	4%



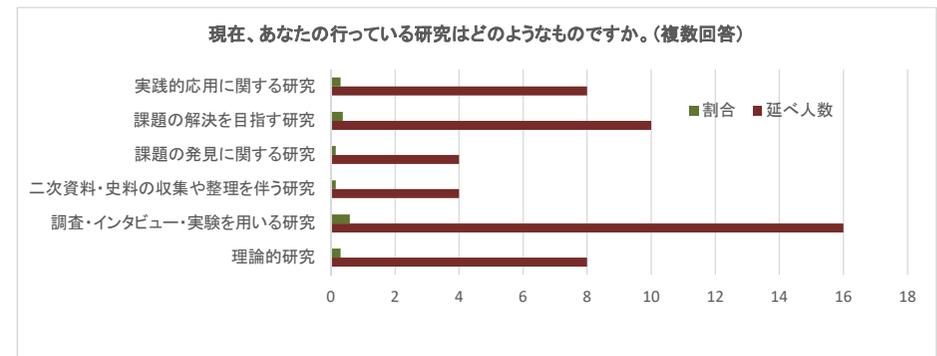
4. あなたの研究についてお尋ねします。

①現在、あなたの行っている研究はどのようなものですか。(複数回答)

項目	内容	延べ人数	割合
A	理論的研究	8	30%
B	調査・インタビュー・実験を用いる研究	16	59%
C	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究	4	15%
D	課題の発見に関する研究	4	15%
E	課題の解決を目指す研究	10	37%
F	実践的応用に関する研究	8	30%
G	その他	0	0%

G:具体的内容

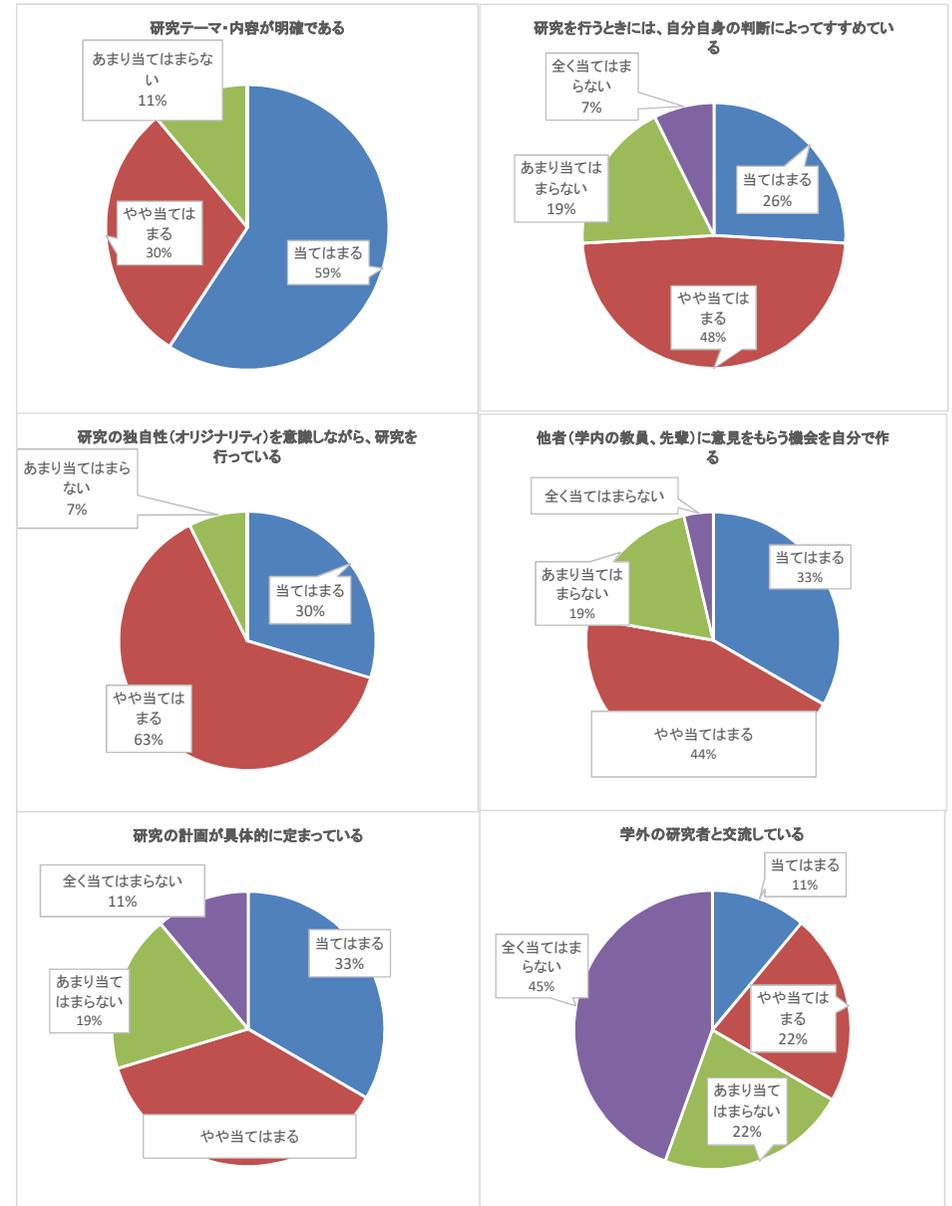
-	-
---	---



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 2/9)

②現時点における研究の状況はどのようになっていますか。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
研究テーマ・内容が明確である	16 (59%)	8 (30%)	3 (11%)	0 (0%)
研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている	8 (30%)	17 (63%)	2 (7%)	0 (0%)
研究の計画が具体的に定まっている	9 (33%)	10 (37%)	5 (19%)	3 (11%)
研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている	7 (26%)	13 (48%)	5 (19%)	2 (7%)
他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る	9 (33%)	12 (44%)	5 (19%)	1 (4%)
学外の研究者と交流している	3 (11%)	6 (22%)	6 (22%)	12 (44%)



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 3/9)

5.今年度、大学院で開講されている授業についてお尋ねします。

①今年度、あなたは何科目履修しましたか。

	人数	割合
0科目	5	19%
1～2科目	2	7%
3～5科目	3	11%
6～10科目	8	30%
11科目以上	9	33%

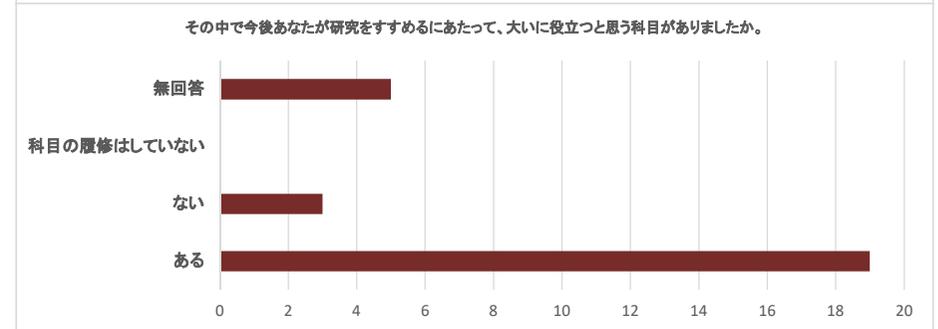
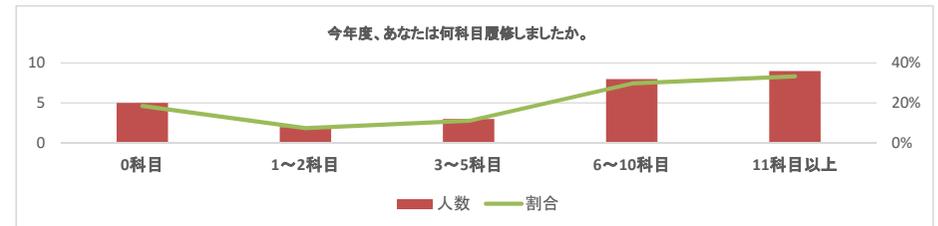
②(1)その中で今後あなたが研究をすすめるにあたって、大いに役立つと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	19	70%
B	ない	3	11%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	5	19%

②(2)その科目名は何ですか。

(3)どのような点が役に立つと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	社会言語学特論 比較社会文化特論	私自身の研究内容が社会言語学や社会学に近いので、授業で知識を深めることができたから。
地文M2	南島史学特論Ⅱ	専門分野とは異なる分野ではあるが、仕事ではかかわることが多い分野であるため、職務上必要な場面が多い
地文M1	心理学研究法特論	心理学的研究の視点が身に付けられる
地文M1	保険医療分野に関する理論と支援の展開	将来の分野に当てはまるから
地文M2	心理実践実習	120時間に及ぶ実習の中で、実際の現場での心理士の仕事を見ることができた。
地文M1	臨床心理学特殊研究	研究計画を考える上で、先生や先輩方からのアドバイスや意見をいただける機会があるため。
地文M2	南島史学特論ⅡB	本講義では、渡口眞清氏が著した「麻氏兄弟たち」をテキストを輪読する形で進めた。その中から、現在は確認できない史料を引用しており、そこから近世琉球の歴史像について議論した。家文書としての史料群(「真安日記」など)の性格について学ぶことができた。
地文M1	英米文学特殊研究ⅠB	専門的であるが、分野を限定し過ぎないところ。
地文M2	文化財保存特論	埋文センターや資料館など、文化財の取り扱いが学べる
地文M1	英語論文の書き方1、2	英語の論文を読解し、実際に英語でレジュメを作成し、研究の内容をディスカッションして意見交換ができてとても有意義だった。英語の論文書き方に加えて様々な研究の知識や基礎概念について学ぶ事ができた。
地文M1	すべて	自己の研究を多面的にとらえることができる。
地文M1	英語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ、 英語学特論	認知言語学的実験手法の実践的学習や論文の読み方・書き方指導
地産M1	経済情報解析特論A	分析をする際の手法の知識が得られるため
法M1	税法	理論的思考能力の向上
法M2	憲法特殊研究Ⅱ	まとめる力、書く力



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 4/9)

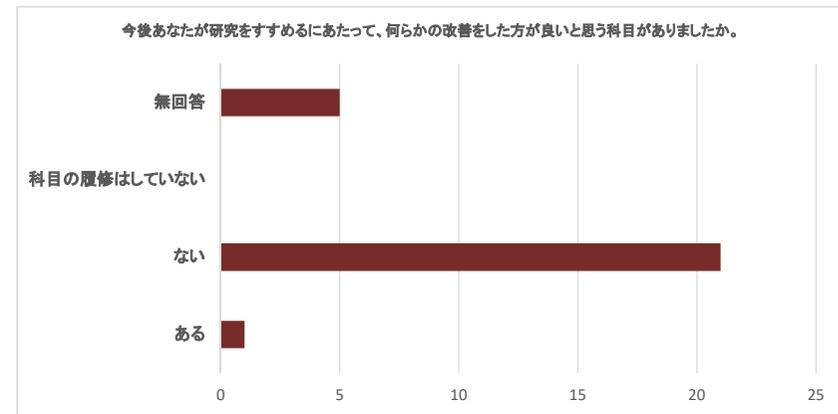
③(1) 今後あなたが研究をすすめるにあたって、何らかの改善をした方が良いと思う科目がありましたか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	ある	1	4%
B	ない	21	78%
C	科目の履修はしていない	0	0%
	無回答	5	19%

③(2) その科目名は何ですか。

(3) どのような点の改善した方が良いと思ったのですか。

	科目名	理由
地文M1	言語教育特殊研究A1	学生の発表がメインで、先生自身の知識を教えてもらったり、意見交換の場は少ないように感じた。毎回発表者の負担が重く、与えられたトピックも限られており、あまり興味関心がもてないような時もあった。



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 5/9)

6. あなたの研究に関する現在の指導体制・環境についてお尋ねします。

①現在の指導体制・環境に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	18	67%
B	満足していない	2	7%
C	どちらでもない	7	26%
	無回答	0	0%

②満足できない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

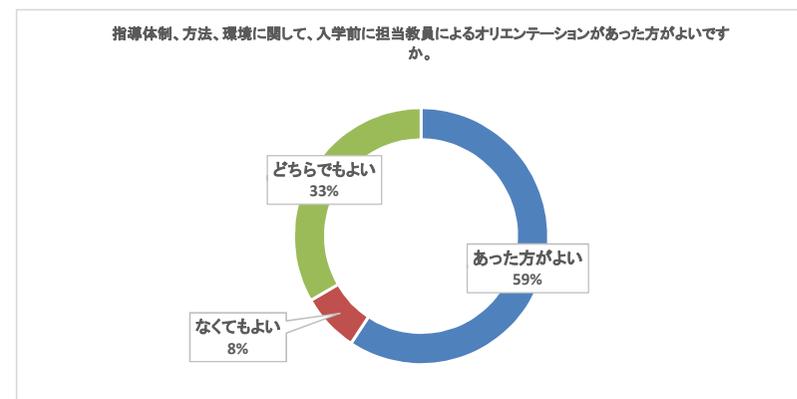
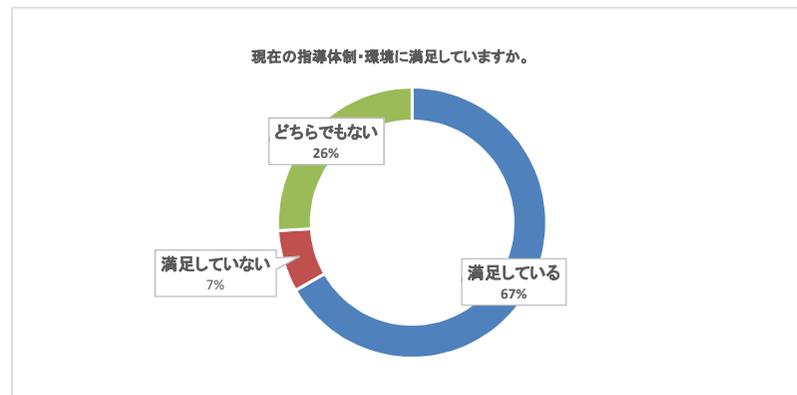
地文M1	他大学院生と交流しなければ、研究に対して討論する時間もない。指導教官も修士論文について相談しても、専門が違うためか曖昧な返事であり、書き上げることができるか不安である。しかも、この専攻はこの先生だけ、と最初から決まっていたため、選択がなかった。
地文M2	大学院生のPC室のPCからAdobeイラストレーターがはずされたこと。研究データをまとめるのに必要となる編集ソフトがなくなったことで、作業効率が大幅に下がった。Adobeソフトが入っているPCが使いたい時間にことごとく、学部の講義とかぶっており、PCを求めて学内をさまようことがしばしばあったこと。

③指導体制、方法、環境に関して、入学前に担当教員によるオリエンテーションがあった方がよいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	あった方がよい	16	59%
B	なくてもよい	2	7%
C	どちらでもよい	9	33%
	無回答	0	0%

④その他、指導体制、方法、環境に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

地文M1	入学して想像していた指導体制、環境とかけ離れていたため、ぜひオリエンテーションをしてほしい。
地文M2	大学院生用のPC教室にAdobeソフトを戻したほうがよいと思う。せめてAdobeでなくてもよいので、PDFを編集できるソフトの導入を検討してもらいたい。
地文M2	指導教官以外の教員から自分の研究についてアドバイスを貰うことが難しいと感じます。自分の研究を明確性を十分に説明できない部分もあるが、共感を得るような相談をしたいときもあるので、研究に関してとアバウトな感じではあるが、自分たちのつまづきや経験からアドバイスをしてくれるような環境があれば良いと思います。教員も自身の研究や職務で忙しいとは思いますが、もう少し気軽に研究の設計や進め方だけではなく、経験なども話していただけたら良いと思いました。 研究環境については十分だと思っています。パソコン室も大学院専用でありますし、図書館の研究室の利用もとても便利です。
地文M2	他領域を受講しても、修了単位に入れてほしい。
地文M2	専門とは異なる領域の科目をもっと自由に取れるようにすべき。学際的な研究をする上で、他の領域の科目の可能履修数の上限が低すぎた。
地産M2	入学後に厳しく言われると従わないといけないうえ、包み隠さず試験前に伝えたほうが入学後に満足度は高まると思う。論文が重要だとのことだが、学部時代にそこまで論文に精通していない人は、基礎的な論文指導やワークショップ的なことを単位講義としてあってもいいかと思う。他大学院性で同じような研究をしている人たちの交流があると刺激になりますね。
地産M1	これから入院される院生のために、研究を進めるに必要な論文の書き方や統計学の知識などを、科目または補足の講義を提供することで、より研究を深めることができると思います。



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 6/9)

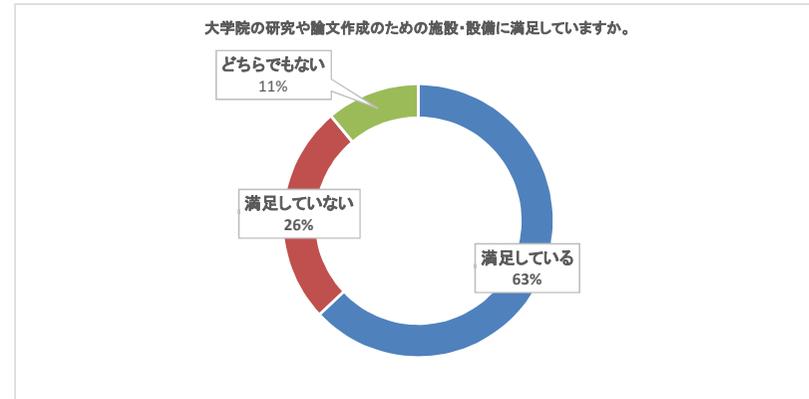
7. 大学院の施設・設備についてお尋ねいたします。

①大学院の研究や論文作成のための施設・設備に満足していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	満足している	17	63%
B	満足していない	7	26%
C	どちらでもない	3	11%
	無回答	0	0%

②満足していない理由は何ですか。(①でBと回答した方のみ)

	理由
地文M1	何故か第2 Semesterに教育実習や興味がある科目が多く、課題に追われて修士論文に割く時間がない。また、研究支援の体制も整っておらず、研究方法や収集について、パソコンを使った分析方法などを扱った科目もなければ機会もない状況で、研究というのは流石に…。共同研究室に至っては、他専攻の院生が占領している。その専攻の人たち専用の研究室を作ればいいのではないかと思うほどである。図書館においても、レファレンスをしてもらえない一言であるし、13号館1階の研究支援課の職員は対応が悪い。支援されずに研究を続けることは到底難しいことであるため、改善してほしい。
地文M2	大学院生用のPC室からAdobe製品が消えたことで、作業効率が下がったことに原因がある。論文執筆には最低限PDFの編集ソフトは必要といえる
地文M1	SPSSやAmosなどの統計ソフトが削減されたこと
地文M2	大学院専用のPC室に設置されているPCに統計ソフト「SPSS」を入れてもらったが、グレードが低いソフトだったので必要な分析が行えなかった。また、導入されているPCも少なく、使えないことも多かった。
地文M1	Journal(海外)の数が少し少なく感じた。
地産M1	①大学院のパソコン教室にSPSSなどのソフトが2台しか導入されていないため、不足していると感じる。 ②施設内の利用時間が11時までなので不便を感じる時がある。
地産M2	参考文献の印刷や発表資料等を出力するための設備が不十分。また、資料のコピーをするための設備も不十分



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 7/9)

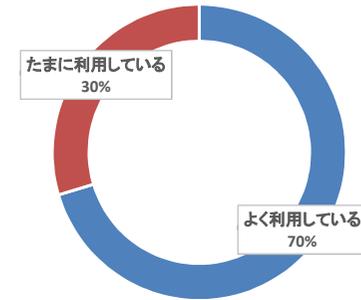
③講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	19	70%
B	たまに利用している	8	30%
C	全く利用していない	0	0%
	無回答	0	0%

④その他、大学院の施設・設備に関してご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。

	内容
地文M1	大学院の研究科別資料室の蔵書検索ができるようにしてほしい。
地文M2	論文の読み手の理解を深めるため、多くの図を作成するので、13号館にillustratorとphotoshopを導入してほしい。
地文M1	図書館のレファレンスの質を上げてほしい。必死に探してそれでもない場合、レファレンスを依頼するが、専門知識がある司書から「ない」と言われれば、そう思うでしょう。共同研究室が私物化されているので、対応してほしい。独占している専攻の人たち専門の研究室を作ればいいと思う。
地文M2	PCにPDF編集ソフトを入れてほしい
地文M2	大学院の施設・設備利用に至っては十分に感じています。しかし、5号館1階のパソコン室エリアを利用する際学部生中心ということもあり、コンピューター管理室の受付などの対応が違ったりするので少し気になるころではあります。ただ、学部生利用が中心なので時々混ざる大学院生になれていないだけだと思っています。5号館で授業を行う場合もあるのでそういったときに使ったり、第二駐車場のほうが移動が便利なときがあるのでスムーズに使えると便利になると思っています。
地文M1	大学院生用の実験室があると嬉しい。
地文M1	とても充実しています。大満足です。
地産M1	①海外の論文サイトの契約を増やしてほしい(先行研究をより深めたいため)。 ②本など参考文献をPDFに収めたいため手軽で早くスキャンができる機械を入れてほしい。
地産M2	図書館での資料のコピーや印刷の設備が不十分

講義や課題や論文の作成にあたり、大学の設備(研究室及び図書館等)を利用していますか。



「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 8/9)

8. 教育支援者(TA・SA)制度についてお尋ねいたします。

①あなたは、現在、教育支援者(TA・SA)として、学部授業のサポートを行っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	行っています	5	19%
B	行っていません	11	41%
C	過去に経験があります	11	41%
	無回答	0	0%

②M2以降も、教育支援者(TA・SA)を続けたいと思いますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	続けたい	5	19%
B	続けたくない	0	0%
C	どちらでもない	0	0%
	無回答	22	81%

③上記②において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	研究費・教材費のたしになるため
地文M1	為になる
地文M1	講義内容について、後輩の理解のサポートをするとともに、自身の理解を深めることもできるため。
地産M1	生徒にアドバイスをすることで、自分の修論の整理にも繋がる
地産M1	先生のサポートをすることで、先生の視点に立った考え方を知ることができ、新たな考え方や知識を深め、さらには教育支援者としての経験をすることができるため。また、先生と生徒とのそれぞれの考え方や価値観を知ることができる。さらには、先生の側で教育支援者として続けることで、先生から自分の研究や進路などについてアプローチをもらうことができるため。

④教育支援者(TA)経験が無い方へ質問です。教育支援者(TA)の経験をしてみたいですか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	してみたい	8	30%
B	してみたくない	1	4%
C	どちらでもない	2	7%
	無回答	16	59%

⑤上記④において、その回答を選んだ理由は何ですか。

地文M1	いい経験になりそう
地文M2	興味はあるが、支援できるだけ自分が理解出来ているか分からない
地文M1	教員がどのように講義を進める計画をしているのか気になるから。
地文M1	自分が培った知識を生かし、後輩の役に立ちたいから。
地産M2	大学で指導者を目指すためには、TAとして経験することは大事だと思う。収入源としても確保したい。
地産M1	他者に知識をアウトプットすることで自分の勉強にもなるから。
地産M2	貴重な経験をしたいため。
地産M1	自分の勉強になるし、教育する目線・立場というものが分かりそうであるから
法M1	時間的に余裕がない
法M2	どちらでもよいからです

「2019年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート」集計結果(大学院全体 9/9)

9. 本学に付置している研究所についてお尋ねします。

①本学にある4研究所を知っていますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	知っている	19	70%
B	知らない	8	30%
C	興味がない	0	0%
	無回答	0	0%

②本学の研究所の施設を利用したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく利用している	3	11%
B	たまに利用している	3	11%
C	全く利用していない	13	48%
	無回答	8	30%

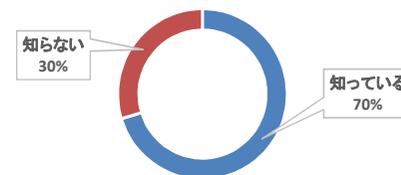
③本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

項目	内容	延べ人数	割合
A	よく参加している	2	7%
B	たまに参加している	9	33%
C	全く参加していない	8	30%
	無回答	8	30%

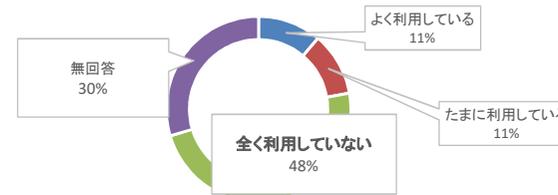
10. その他、ご意見やご要望がございましたら、自由にご記入ください。(時間数、科目の種類など)

地文M1	倫理申請の締め切りを設けないでほしい
地文M1	第2セメスターに科目が固まっているため、バランスよく配置してほしい。他大学院生と交流会のようなイベントがほしい。
地文M2	同じ専攻の科目を同じ曜日同じ時間にかぶせないでほしい。できれば1年で可能な限りの単位を取得し、2年目は論文に集中したい学生が多いのではないだろうか。特に働きながら大学院に通っている学生にとって。
地文M2	四つの研究所があるのは知っているが、何処にあるのかがあまり良くわかっていないですし、何をしたらいいのかもあまり把握していません。自信で調べることが必要だと思いますが、大学院生で気軽にうかがえる場所なのかなど敷居が高いと感じていることも多いです。
地文M1	前期・後期の時間割のスケジュールが早め(2~3ヶ月前など)に確認できると、仕事のスケジュールも調整しやすいので、早めにポータルで提示してくださいと助かります。
地文M1	仕事を持っているので、講義の始まり時間等の調整をしていただいています。とても感謝しています。
地産M2	大学院を努力したが留年した際には、授業料を安くしたり免除したりなどの経済的なサポートをしてほしい。生活をしないといけないため、多くの学生はアルバイトをしながら、授業を工面しており、結局は研究などに集中できていない。それゆえにTA制度は良いのではないかなと思う。
地産M1	開設していないコースはパンフレットに記載しないでほしい。
地産M1	TAで時間外活動で遠征などのサポートを行った際には、補助金制度を設けてほしい(自己負担の軽減)。
地産M2	研究資料を閲覧するための部屋の資料をさらに充実させたい。また決まったタイミングで、一度に注文するのではなく、欲しいときに、必要な資料を入れるようにしていただけたらさらに研究が捗る。
地産M1	今後、働き方改革等で、社会人の余暇が増加し、社会人大学院生が増加する事が想定されると思われます。その中で、沖縄の企業へ勤務する社会人の方が今以上に通いやすい環境があれば、なお良いと思います。→例えば平日遅い授業の増加、土日に受講できる授業の増加など。

本学にある4研究所を知っていますか。



本学の研究所の施設を利用したことがありますか。



本学の研究所が主催する「研究会」などのイベントに参加したことがありますか。

